

教員著作紹介

『カズオ・イシグロの世界』

岩田託子（国際英語学部教授）他著

2017年度ノーベル文学賞受賞を機に高まる関心に応えるべく、かつてカズオ・イシグロを特集した『水声通信』2008年9・10月号が単行本となった。愛読者も多く、研究者も育つなかで、いっそうの受容・理解が日本においても進むことが期待される。所収の「映像にイシグロはなにを見るか」では、脚本執筆・制作者としての一面・映画化自作とのスタンスなど、作家活動初期からの映像界での営みを追ひ、イシグロの奥行きを示している。

水声社 2017年12月刊

『カズオ・イシグロ読本 その深淵を暴く』

岩田託子（国際英語学部教授）他著

2017年度ノーベル文学賞を受賞し注目を浴びる作家へのガイドブックで、コラムや図版を駆使し、多方面からのアプローチを試みている。長崎生まれで5歳の時に父の仕事の関係で渡英し、現在は英国籍の作家であるが、多くの日本人は受賞に親近感を持った。この機会に編纂された手引き中、「『日の名残り』のあとのイシグロと映像」を、2010年代の映画やTVドラマの原作者としてイシグロに出会ったかたに、文学世界へ誘うべく執筆している。

宝島社 2017年12月刊

『路と異界の英語圏文学』

森有礼（国際英語学部教授）編著 クリストファー・J・アームストロング（国際英語学部教授）、杉浦清文（国際英語学部准教授）

他著

北米、カリブ海地域、イギリスにおける映画や文学を「路」と「異界」というキーワードを通して読み解いた、気鋭の論考が10本掲載されている。「観たいものを観るため、知りたいことを知るためだけの旅、決められた旅程をこなすだけの旅、そして異界を（求めて）移動することの意義と問題を考慮しない旅は、最早我々にとって進むべき道程とはなりえない。では今、改めて旅することの意味を考え直すために、どのような見地が必要とされているのだろうか」（本書、「はじめに」により）

大阪教育図書 2018年1月刊